

放射線データの概要 10月分（10月1日～10月31日）

2022年11月2日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 2022年10月に公開したデータ数は約14,700件
（「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ公開）

● 敷地内ダスト（粉じん）濃度は低い濃度で安定

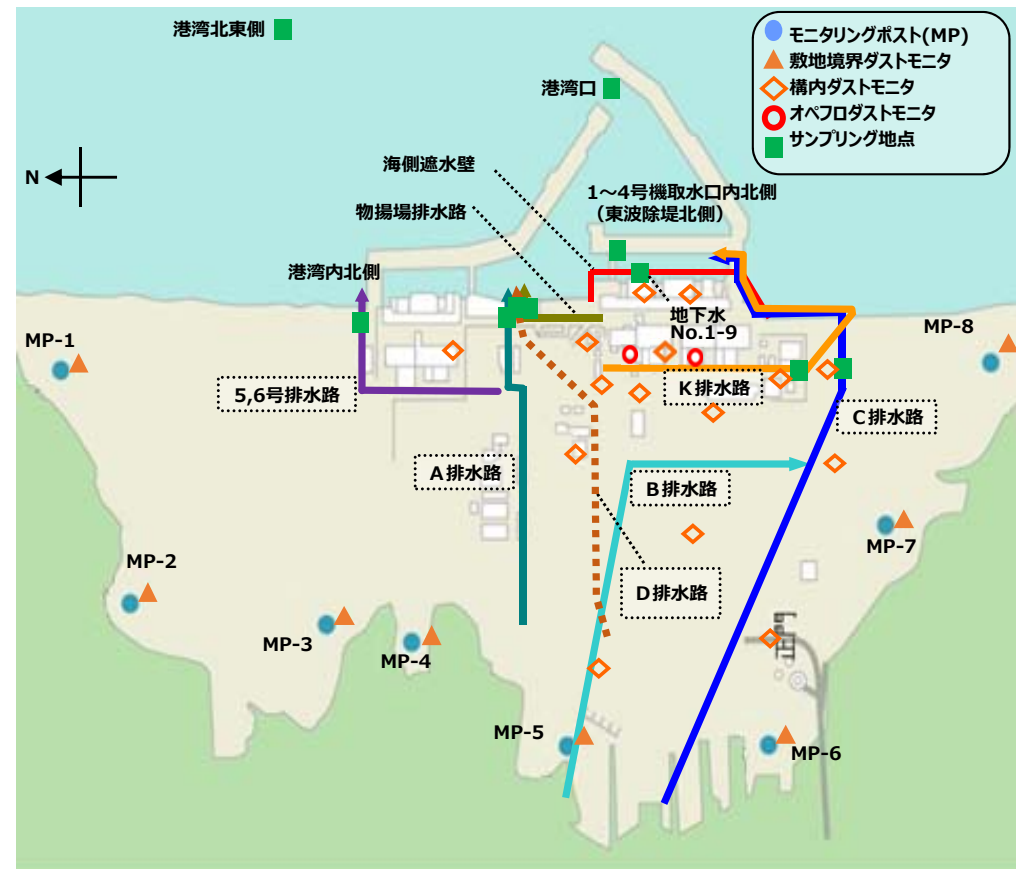
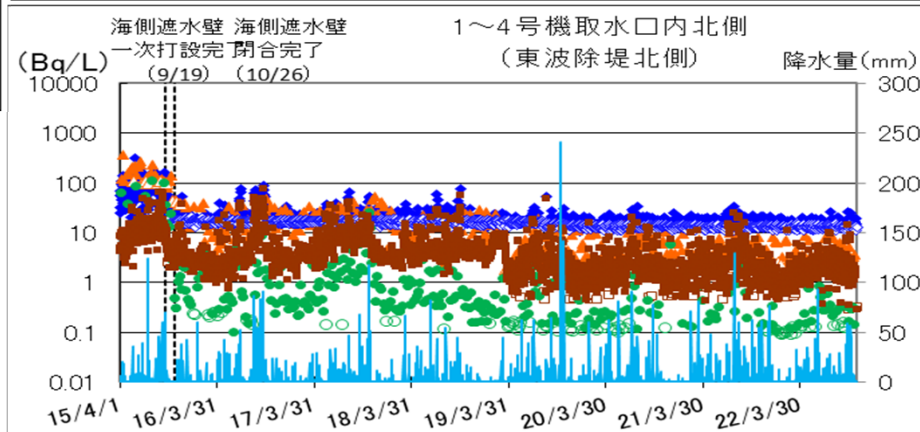
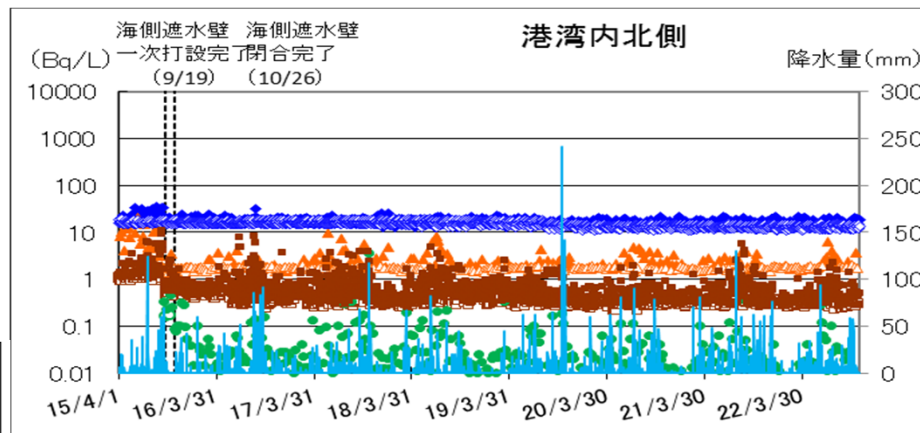
1号機では、4月13日から大型カバー設置工事（アンカーおよびベースプレート設置）を実施中。2号機では、2月14日から格納容器貫通孔前で、格納容器との隔離を行うための作業用部屋の設置作業を実施中。また、原子炉建屋オペレーティングフロア内において、8月22日から使用済燃料プールからの燃料取出し用新設機器の設置に干渉する、燃料取扱機操作室解体作業を実施中。

1/2号機廃棄物処理建屋周辺では、ガレキ撤去工事の一環として10月3日から1号機側主排気ダクトの一部撤去作業を実施中。これまで同様、敷地境界ダストモニタに有意な変動はない。

● 港湾内海水の放射性物質濃度は低い濃度で安定

10月中旬より、5、6号機取水口付近で、多核種除去設備等処理水希釈放出設備及び関連施設等の設置工事に係わる堆砂の撤去等の工事を開始。港湾の海水中セシウム濃度等への影響は見られていない。また、1～4号機取水口内北側（東波除堤北側）の海水中セシウム濃度は、降雨後に一時的な上昇が見られるものの、速やかに低下して低い濃度で推移している。

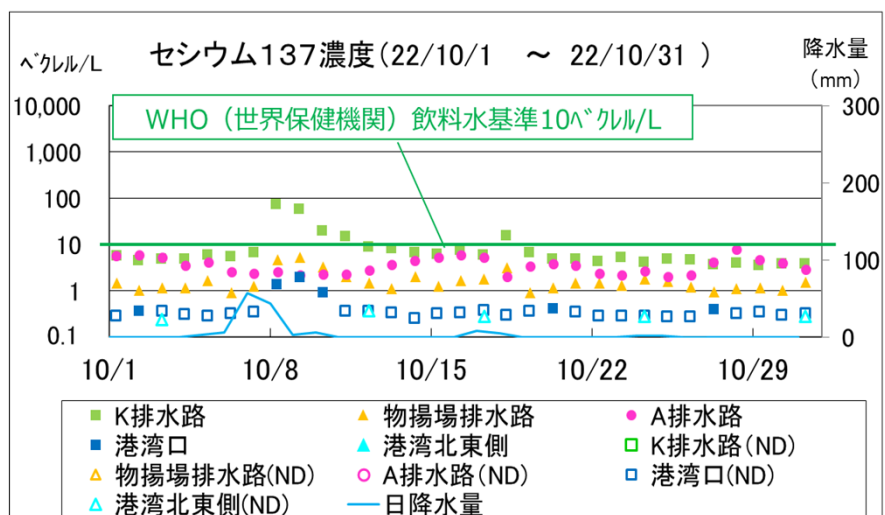
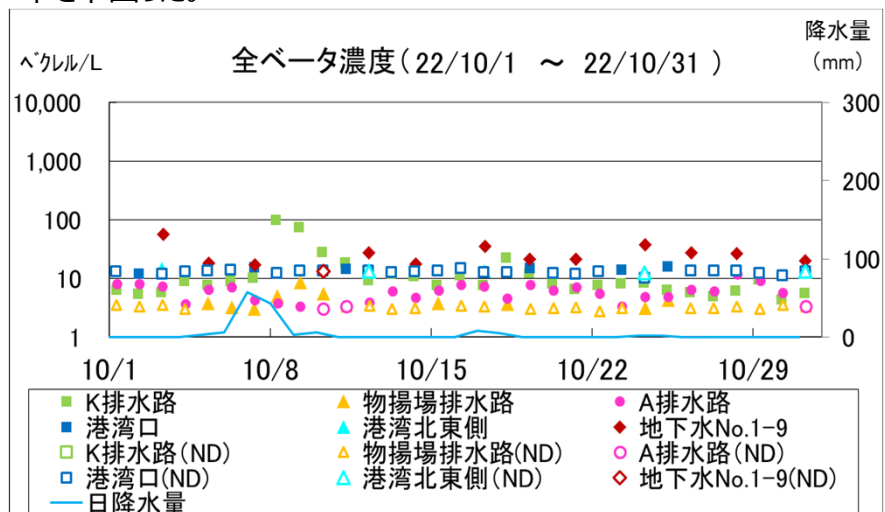
〈海水中放射性物質濃度〉



放射線データの概要 10月分詳細 (10月1日～10月31日)

A 水 (海水、排水路、地下水等)

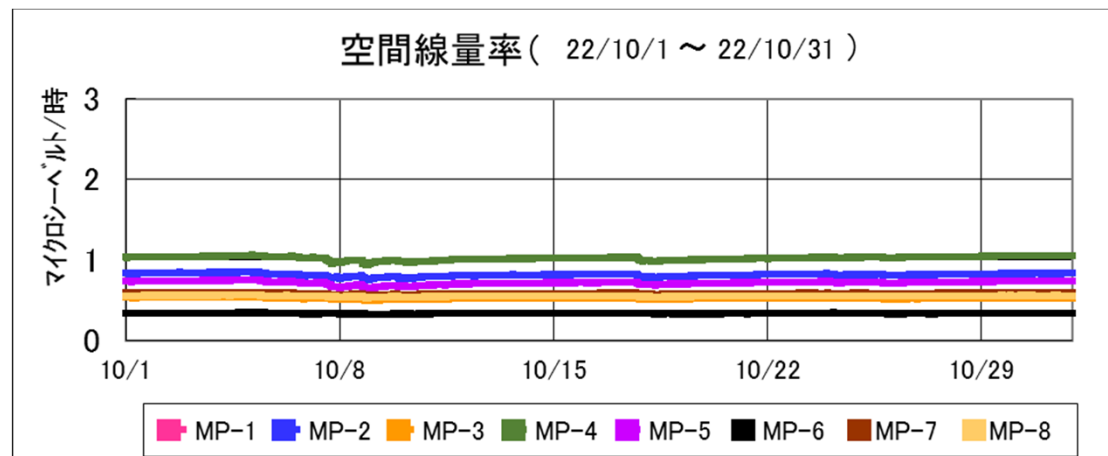
- 降雨時には、排水路の全ベータ濃度、セシウム137濃度が一時的に上昇。
- セシウム137濃度は、降雨時のK排水路を除けば、概ねWHO飲料水基準を下回った。



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。カリウム、セシウム、ストロンチウム等が含まれる。
- 海水の全ベータについては、天然の放射性カリウムが約12ベクレル/L含まれている。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出限界値を記載。
- 地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視。

B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

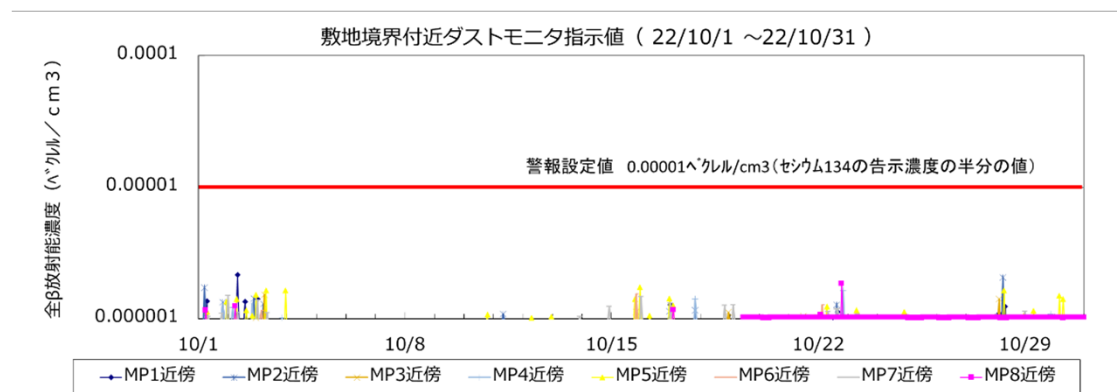
- 低いレベルで安定。



敷地境界における1時間あたりの線量率を3マイクロシーベルトとすると、例えば1ヶ月間この場所で作業を行った場合(1日あたり8時間、20日間作業をしたと仮定)の被ばく線量は約0.5ミリシーベルトになります。

C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低い濃度で安定。

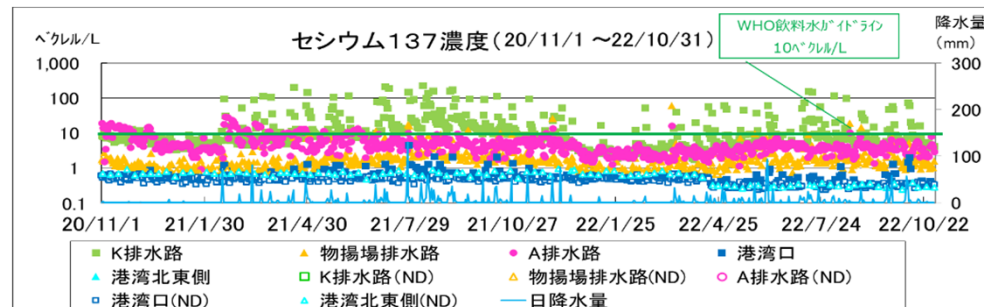
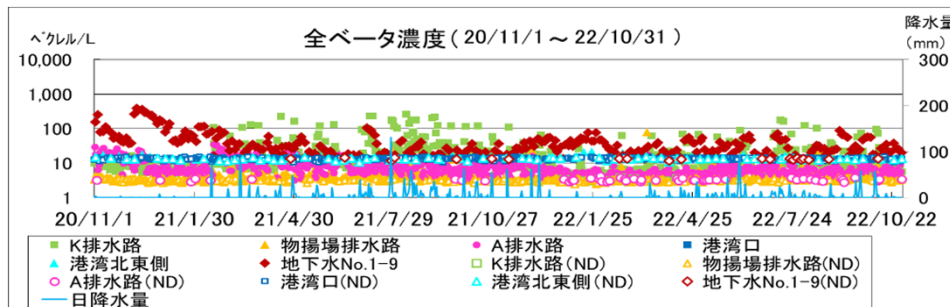


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準

放射線データの概要 過去の状況

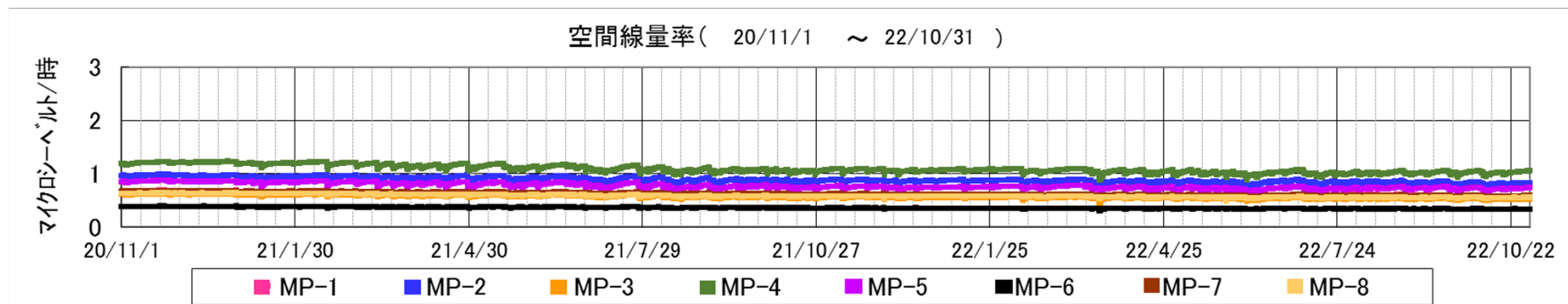
A 水（海水、排水路、地下水等）

- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未満。
- ・K排水路のセシウム137濃度は、降雨の多い春から秋にかけて上昇がみられ、冬季は低下。排水路の清掃や敷地全体の除染等の対策を実施中。



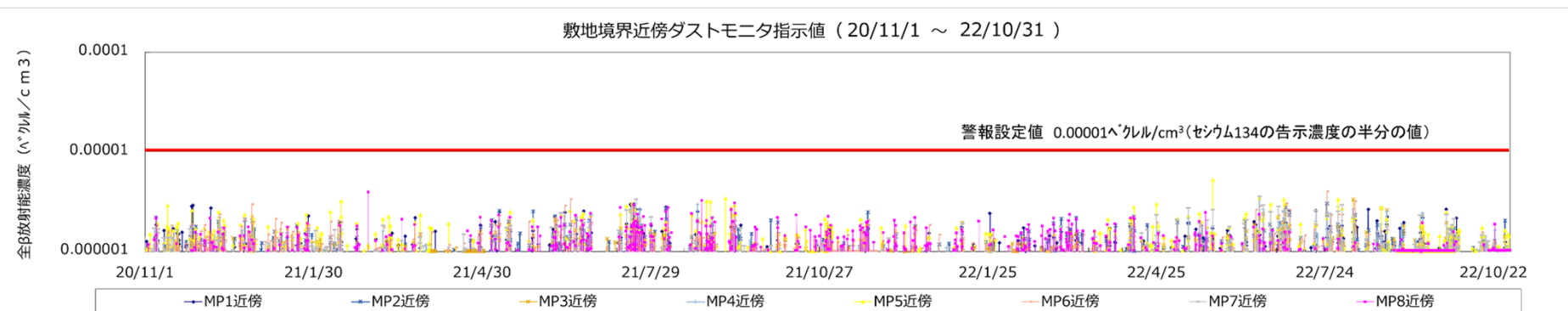
B 空間線量率

- ・全てのモニタリングポストにおいて、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、大きな上昇はなく、低い濃度で安定。

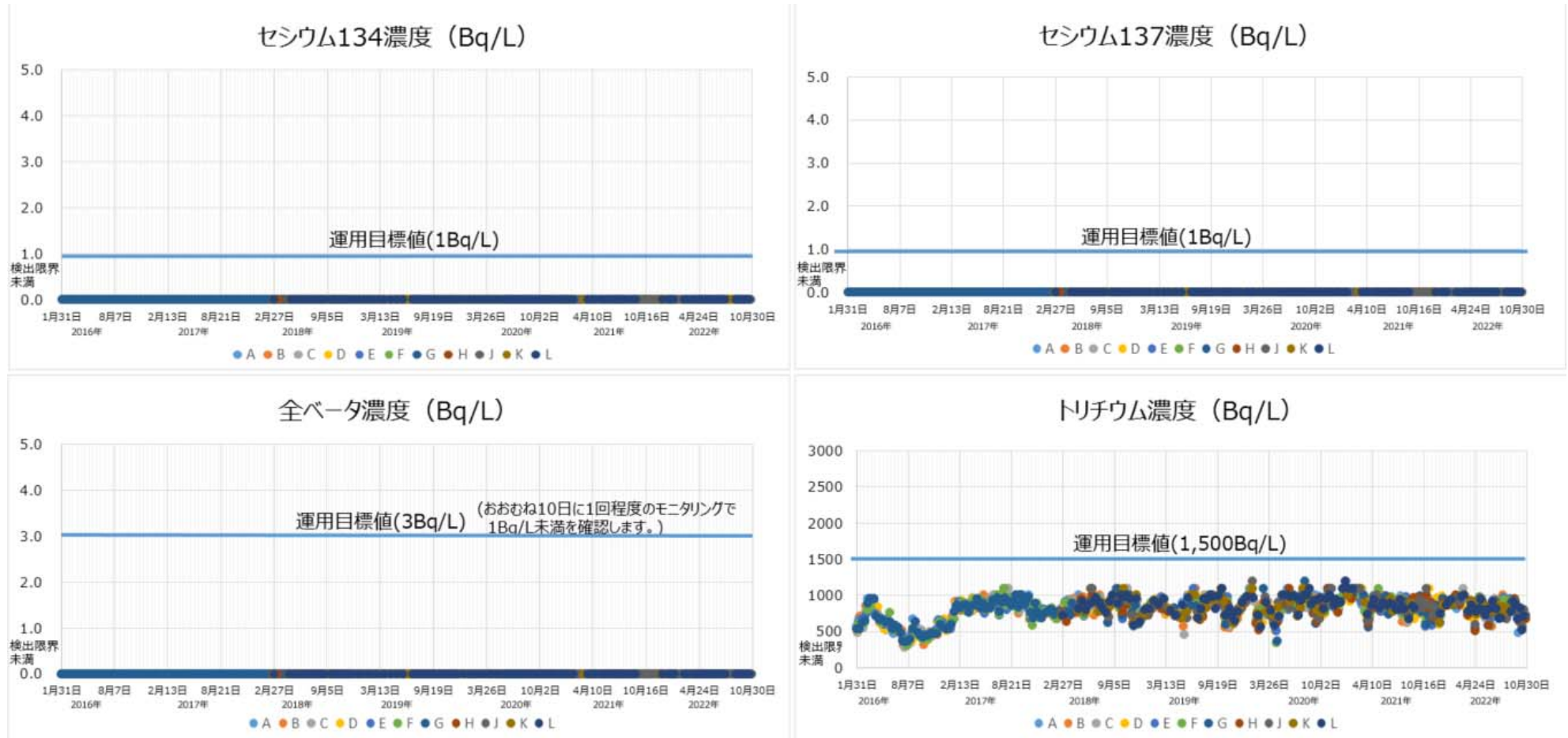


サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果で、セシウム134、セシウム137、全ベータ（ストロンチウム等）、トリチウムが運用目標値を下回っていること、その他ガンマ核種が検出されていないことを確認。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認した上で、2015年9月14日から2022年10月31日までに合計2,021回、1,416,335m³を排水。
- 引き続き、分析結果が運用目標値を下回っていることを確認した上で排水する運用を徹底。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<https://www.tepco.co.jp/decommission/data/analysis/index-j.html>をご覧ください。